

農林業の現場体験

山陰5大学・短大共同教育事業

学生が成果報告し合う

松江・島根大

山陰両県の5大学・短大などによる、共同教育推進事業「山陰地域ソーシャルラーニング」の活動を振り返る学生シンポジウムが14日、松江市西川津町の島根大学であり、参加した50人が農林業の現場を訪れて学んだ成果を報告し合った。

山陰地域ソーシャルラー

ニングは、山陰両県の活性化に貢献する学生の育成を目的とした授業。学習の成果を分かち合い、大学・短大間の連携を深めようと、島根県立大学短期大学部の青笹実香さん(20)ら学生7人が企画した。

シンポジウムでは5大学・短大の代表者が2014年度の活動を報告。このう

ち、鳥取短期大学の井田裕康さん(20)は、倉吉市内の



活動を報告する学生たち。松江市西川津町、島根大学

農家を取材し、就農人口が減少している現状に触れ「行政が雇用環境を整えてほしい」と訴えた。

島根県立大学短期大学部の亀山万里さん(19)らのグループは、浜田市弥栄町の山林でヒノキの間伐やイノシシの食肉処理を行った体験を話し「生産者の目線に立ち、食に対する価値観が変わった」と述べた。

島根大学の青木大輝さん(21)は「発表を聞き、自分も地域のために行動したくなった」と話した。

松江 島根大

理想の就業体験は

学生と企業代表 アイデア出し合う

島根大と県立大、ふるさと島根定住財団のシヨブ
カフェしまねが21日、松江
市西川津町の島根大松江



インターンシップの在り方について、意見交換する参加者

キャンパスで、地元貢献
できる人材育成方法を考
えるため、情報交換会を
開いた。大学、学生に地元
企業の代表を交え、それぞ
れが理想とするインター
ンシップ（就業体験）を目
指し、アイデアを出し合っ
た。

NPO法人・てごねっと
石見の横田学理事長をコー
ディネーターに、学生と大
学の就職支援担当者、企業
の採用担当者が7人ずつ、
10グループに分かれて話し
合った。

インターンシップに参加
した経験を持つ学生は、座
学や学生同士の交流のみに
終始するケースがあると指
摘。「密」とみなすのでは
なく、採用して仲間となる
可能性があると考え、積極
的に業務体験を盛り込むよ

う望む声が相次いだ。

一方、企業側は、学生が
体験したい業務が把握し
づらいとして、希望を踏ま
えた上で受け入れ態勢を
整える「オーダーメイド」
型が理想とした。企業名を
伏せて業務内容のみで募
集する方式の提案もあっ
た。

横田理事長は「出た意見
をどんどん持ち帰り、取り
組みに反映させてほしい」
と期待した。

平成 27 年 2 月 22 日付け・山陰中央新報

実質倍率前年下回る

島根県立大短期大部入試

島根県立大短期大学部
（松江市浜乃木7丁目）は
27日、2015年度一般入
試の合格者を発表した。受
験者数を合格者数で割った
実質倍率は全3学科で前年
を下回った。

総合文化学科（募集人員
35人）は60人が合格し、実
質倍率は前年度比0・9倍
減の1・2倍。48人が合格
した健康栄養学科（同30人）
は0・4倍減の1・4倍だ
った。保育学科（同28人）
は43人が合格し、1・2倍
減の1・7倍だった。

平成 27 年 2 月 28 日付け・山陰中央新報